

## 岡山観一会だより

第1号

## にぎやかに総会開く

## 五十人参加 新会長に佐川氏選出



なごやかに歓談する参加者

岡山観一同窓会の総会・懇親会が五月十三日、岡山市内のサンビーチ岡山で開かれ、総会の毎年開催や会費徴収の変更など決め、新会長に佐川弘治郎氏(昭和四十年

卒)を選出しました。総会の後、懇親会に移り、参加者は久しぶりに顔を会わせた同級生や先輩、後輩と会食しながら歓談し、にぎやかに交流を深めていました。

総会は二年ぶりの開催で、岡山在住の旧制三豊中、観音寺一高OB約五十人が参加、玉井徹会長(二十九年卒)の挨拶で開会しました。来賓七人のうち、三宅昭二本部長、同窓会長、島田正輝校長、京阪神支部の合田英之相談役から、各地同窓会の様子や、観一高の現状などを紹介するご挨拶を頂きました。

## 岡山観一会役員

## &lt;顧問&gt;

松浦 良行 (S. 19 卒)  
玉井 徹 (S. 29 卒)  
床田 弘幸 (S. 29 卒)  
河合 京子 (S. 35 卒)

## &lt;会長&gt;

佐川弘治郎 (S. 40 卒)

## &lt;副会長&gt;

石井 成毅 (S. 31 卒)  
久保 恭宏 (S. 33 卒)  
片山 泰弘 (S. 36 卒)  
若林みどり (S. 39 卒)  
尾崎 敏文 (S. 55 卒)

## &lt;理事&gt;

高坂つた子 (S. 30 卒)  
真鍋 五男 (S. 38 卒)  
小西 康夫 (S. 41 卒)  
高橋 誠 (S. 44 卒)  
宇賀 博 (S. 44 卒)  
大平 正典 (S. 47 卒)  
秋山 博正 (S. 51 卒)  
西宇 建雄 (S. 59 卒)  
吉田 卓央 (H. 元 卒)

## &lt;事務局&gt;

滝本 清文 (S. 40 卒)  
小出 博 (S. 43 卒)



全員集合 はい パチリ

## &lt;決定事項&gt;

- 会費について…1,000円/2年 (現行1,000円/4年)
- 平成24年度 年間計画について
- I 総会・懇親会 5月13日  
※隔年開催から毎年開催に変更
- II 広報誌作成・全会員に送付 6月
- III 青春会 11月16日(金) 18:30~ (会場未定)
- IV 役員会 平成25年3月(日時・会場未定)

同時に、この日、初披露された「学園の歌」の作詞者である柳川邦衛さん(東京在住)と、観音寺から駆け付けてくださった本部同窓会の荻田奈津美、片山葉子両副会長、「学園の歌」の指導者石村元子さ

んを大きな拍手の中、ご紹介しました。議事では、小出博氏(四十三年卒)が、総会の毎年開催、役員改選など提案、満場一致で承認されました。新旧会長の挨拶の後、長い間会長を務められた玉井さんに感謝の意を込めて花束が贈られました。

## 幻の「学園の歌」流れる

待望の懇親会に移り、松浦良行顧問(十九年卒)の発声で高らかに乾杯し、にぎやかに宴が始まりました。杯を酌み交わしながら高校時代の思い出や近況報告などで話が弾み、あちこちでどつと歓声が上がります。

満を持して柳川、石村さんらが登場、観一高で昭和二十五年から五年間歌われた「学園の歌」の披露です。当時歌っていたという三宅会長や、荻田さん、片山さんらも進み出て、石村さんのリードで歌います。みんな初めて聴く歌ですが、石村さんに促されて声を張り上げ、歌いながら歌詞に織り込まれた故郷の景色などを思い起こしているかのようでした。

やがて閉会の時間が迫り、片山泰弘副会長(三十六年卒)の「またお会いしましょう。どうかお元気で」の挨拶で散会しました。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
退任の挨拶をする

玉井 徹 前会長

会員の皆さまの協力のおかげで何とか大役を務め上げることができました。後は長年事務局を担当し経験豊富な佐川新会長に安心してお任せすることができうれしく思います。長い間ありがとうございました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
佐川会長あいさつ

私が岡山観一会と出合ったのは昭和六十二年頃だったと思います。同級生の滝本君（現事務局）から「岡山在住の観一OBが集う懇親会が開かれるようだが、行ってみないか」と誘われました。当日、会場では、初めて言葉を交わす同級生との出会いや、ふるさとの同じ町内の先輩と何十年ぶりの感激の出会いもあり、楽しいひとときを過ごすことができました。その後まもなく、役員の方々と係わりが深まり、「私の出来ることは、お手伝いしますよ」ということで、以後、二十数年間、事務局的な仕事をしてきました。会場を予約、案内状の発送、出席者の確認と会場との連絡、要項など資料

の作成などに取り組みました。ある時、資料作りを見た娘から「まだ、そんなこと、しょん」と言われ「好きなんじやから、しょーがないが」と言葉を返したこともあります。

やっぱ、なんと言つても嬉しかったのは、参加者が約八十名を数えた時のことです。また、会員の方が亡くなられた時、ご家族の方から「父は讃岐弁まじりの案内状など、喜んでいました。返信葉書でお礼を言うのどうか」と思ってお電話しました。ありがとうございます」とご丁寧にお電話を頂いたことです。

二十数年前は会員数は三百七十名を数えていましたが、現在では約二百六十名です。その上、常連さんの高齢化が進み、参加しにく



新任挨拶する佐川新会長

くなってきました。また、一度、参加しても二度目の参加がないといった現状もあり、参加者数の減少傾向が止まりません。これからも、会員の皆様の一層のご協力をお願いするとともに役員の方々が岡山観一会を盛り立てていきたいと思っておりますので、よろしく

## 「学園の歌」

## 五十五年ぶりに復活

懇親会の席で披露された「学園の歌」は、昭和二十五年から五十年間歌われた事実上の校歌でした。二十四年、戦後の学制改革で旧制三豊中学と三豊高女が統合されて観音寺一高が誕生しましたが、新生高校には校歌がありませんでした。そこで新制中学から一期生が入学した翌二十五年夏に「学園の歌」を校内公募し、入選した柳川邦衛さんの歌詞に音楽教師が曲を付けました。三宅昭二本部長は当時の在校生にとつては「青春時代の校歌」でしたが、観一高の校歌が誕生した三十年以降は歌われず、幻の歌となっていました。



「みんなて歌おう」左から4番目が作詞者の柳川さん

活発表の場となりました。さらに三宅会長の熱意で昨年の本部総会でも大合唱曲として歌われ、会場は大いに盛り上がりました。本

## お知らせ

部では今後、総会資料に三中、三女、観一高の校歌と並んでこの「学園の歌」を掲載するそうです。



昭和40年前後に建てられた現在の校舎は建て替えのため今年度中に取り壊されるとか。早めに訪問してはいかがでしょうか。

この総会・懇親会の写真が今夏、山陽新聞の「ちまた・集い」に載ります。掲載日は未定ですが、8月になれば注目してください。

## 学園の歌

朝日に映える巨龍山  
夕日は燃ゆる燧灘  
ここ西讃の一角に  
集いて謳わん 学園の  
ああ歓びの黎明を

野をさ緑に彩りて  
滔々とゆく財田川  
涯なき流れを望みつつ  
集いて建てん学園の  
ああ輝ける伝統を

琴弾く磯の松風に  
北斗の影は清く冴え  
仰ぐ瞳に夢熱く  
集いて讃えん学園の  
ああ永久の栄光を